

令和元年度

社会福祉法人 南陽市社会福祉協議会事業報告書

〈 概 要 〉

今日の社会福祉を取り巻く環境は、少子高齢化や核家族化の急速な進展、地域住民相互のつながりの希薄化、地域社会や家族形態の変容、さらには個人の価値観や生活様式の多様化等を背景に、生活課題や福祉課題が複雑化かつ複合化してきている。

本法人では「住民主体の理念に基づき、地域の福祉課題の解決に取り組み、だれもが安心して暮らすことのできる地域福祉の実現」を目指し、行政や関係団体とも連携し事業に取り組んだ。

はじめに、本法人の経営状況について、この3年赤字決算となり法人運営が危機的状況となってきたことから現状分析と課題抽出を行い今後の事業運営方針を立て経営改善と課題解決に取り組んできた。年度途中で組織体制を再編し、諸規程を整備して経費の抑制に努め、社協本来の事業の在り方や介護保険事業の適正経営規模を模索してきた。今年度は、職員の理解と協力、一層の努力により大幅な赤字圧縮を図ることができた。財務状況や運営状況など進捗状況を定期的に確認し、今後の道筋を立てながら経営改善を推進して事業運営の継続、安定経営を目指していく。

生活自立支援センターでは、生活困窮者に対する総合相談、生活福祉資金貸付や就労支援等の通常業務の他、新型コロナウイルス感染症による経済的影響、離職や休業等による生活不安に対応するため、特例貸付の申請援助を行い生計が維持できるよう支援を行った。地域包括支援センターでは、一般高齢者の介護相談や認知症高齢者などの相談支援にあたるとともに、認知症カフェや認知症サポーター養成講座の開催、出前講座等を通して、多くの市民の方々へ在宅介護の不安解消と認知症の理解・啓発に努め、認知症の方やご家族が住み慣れた地域で安心した生活を送ることができるよう事業を実施した。また、介護予防事業においては心身機能を高め健康寿命の延伸、介護予防を図れるよう健康維持活動の事業を展開し、介護保険事業では要支援者・要介護者が心身機能の維持・安定を図り自立した生活が維持できるよう支援した。

令和元年東日本台風による豪雨災害は、広域に甚大な被害がもたらされたことから当社協では川西町をはじめ宮城県の柴田町、丸森町でのボランティア活動を行った。特に被害の大きかった丸森町には災害ボランティアセンターの運営スタッフとして職員を派遣するとともに、ボランティアバス運行を企画し、ホームページやメディアを通じて募集を呼びかけ被災者への生活支援、ボランティア活動を実践した。

行政と共に策定した「南陽市地域福祉計画・地域福祉活動計画」に基づき、誰もが住みなれた地域で安心して暮らせる福祉コミュニティをつくることを目指し、これからも、すべての住民の方々が安心していきいきと生活できるよう、地域の様々な活動を活性化し、ひとり一人が自立した生活を送ることができる地域社会の実現に向けて、より一層その推進に努めてまいります。

【1】法人・組織管理

1. 理事会の開催

《第157回理事会》 出席者 会長・副会長・常務理事・理事・監事・事務局

- ・ 期日 令和元年6月12日（水）
- ・ 会場 南陽市健康長寿センター（創作研修室）
- ・ 議事 (1) 平成30年度南陽市社会福祉協議会事業報告書の認定について
(2) 平成30年度南陽市社会福祉協議会一般会計決算書の認定について
(3) 令和元年度南陽市社会福祉協議会資金収支補正予算（案）について
(4) 南陽市社会福祉協議会理事の改選について
(5) 南陽市社会福祉協議会監事の改選について
(6) 南陽市社会福祉協議会評議員候補者の推薦について
(7) 定款施行細則の改定について
(8) 役員報酬、費用弁償に関する規程の改正について
(9) 平成30年度山形県共同募金会南陽市共同募金委員会一般会計決算書の承認について

《第158回理事会》 出席者 会長・副会長・常務理事・理事・監事・事務局

- ・ 期日 令和元年6月27日（月）
- ・ 会場 南陽市健康長寿センター（健康教育室）
- ・ 議事 (1) 会長の選任について
(2) 副会長の選任について
(3) 常務理事の選任について

《第159回理事会》 出席者 会長・副会長・常務理事・理事・監事・事務局

- ・ 期日 令和元年12月11日（水）
- ・ 会場 南陽市健康長寿センター（創作研修室）
- ・ 議事 (1) 評議員の推薦について
(2) 理事の推薦について
(3) 社会福祉法人南陽市社会福祉協議会職員の給与に関する規程の改正について
(4) 社会福祉法人南陽市社会福祉協議会福祉基金の運用について

《第160回理事会》 出席者 会長・副会長・常務理事・理事・監事・事務局

- ・ 期日 令和元年12月11日（水）
- ・ 会場 南陽市健康長寿センター（創作研修室）
- ・ 議事 (1) 副会長の選任について

《第161回理事会》 出席者 会長・副会長・常務理事・理事・監事・事務局

- ・ 期日 令和2年3月26日（木）
- ・ 会場 南陽市健康長寿センター（創作研修室）
- ・ 議事 (1) 令和元年度南陽市社会福祉協議会一般会計資金収支補正予算（案）について

- (2) 南陽市社会福祉協議会経営改善計画（案）について
- (3) 南陽市社会福祉協議会職員の給与に関する規程（案）について
- (4) 南陽市社会福祉協議会嘱託職員等取扱規程（案）について
- (5) 南陽市社会福祉協議会事務決裁規程の改正（案）について
- (6) 令和2年度南陽市社会福祉協議会事業計画書（案）について
- (7) 令和2年度南陽市社会福祉協議会一般会計資金収支予算書（案）について
- (8) 令和元年度南陽市社会福祉協議会福祉活動功労者の推薦について
- (8) 令和元年度山形県共同募金会南陽市共同募金委員会一般会計資金収支補正予算（案）について
- (9) 令和2年度山形県共同募金会南陽市共同募金委員会一般会計資金収支予算（案）について

2. 評議員会の開催

《第120回評議員会》 出席者 会長・副会長・常務理事・評議員・監事・事務局

- ・期日 令和元年6月27日（木）
- ・会場 南陽市健康長寿センター（創作研修室）
- ・議事
 - (1) 平成30年度南陽市社会福祉協議会事業報告書の承認について
 - (2) 平成30年度南陽市社会福祉協議会一般会計決算書の承認について
 - (3) 令和元年度南陽市社会福祉協議会一般会計資金収支補正予算（案）について
 - (4) 南陽市社会福祉協議会理事の選任について
 - (5) 南陽市社会福祉協議会監事の選任について
 - (6) 役員報酬、費用弁償に関する規程の改正について
 - (7) 平成30年度山形県共同募金会南陽市支会一般会計決算書の承認について

《第121回評議員会》 出席者 会長・副会長・常務理事・評議員・監事・事務局

- ・期日 令和元年年12月11日（水）
- ・会場 南陽市健康長寿センター（健康教育室）
- ・議事
 - (1) 社会福祉法人南陽市社会福祉協議会理事の選任について

《第122回評議員会》 出席者 会長・副会長・常務理事・評議員・監事・事務局

- ・期日 令和2年3月26日（木）
- ・会場 南陽市健康長寿センター（健康教育室）
- ・議事
 - (1) 令和元年度南陽市社会福祉協議会一般会計資金収支補正予算(案)について
 - (2) 南陽市社会福祉協議会経営改善計画（案）について
 - (3) 令和2年度南陽市社会福祉協議会事業計画（案）について
 - (4) 令和2年度南陽市社会福祉協議会一般会計資金収支予算（案）について
 - (5) 令和元年度山形県共同募金会南陽市共同募金委員会一般会計資金収支補正予算（案）について
 - (6) 令和2年度山形県共同募金会南陽市共同募金委員会一般会計資金収支予算（案）について

3. 監事会の開催

《監査実施》 出席者 監事・会長・常務理事・事務局

- ・期日 令和元年5月27日（月）
- ・会場 南陽市健康長寿センター（創作研修室）
- ・内容 （1）平成30年度南陽市社会福祉協議会事業全般について
（2）平成30年度南陽市社会福祉協議会諸決算について

《監査実施》 出席者 監事・会長・常務理事・事務局

- ・期日 令和元年11月21日（木）
- ・会場 南陽市健康長寿センター（創作研修室）
- ・内容 （1）令和元年度南陽市社会福祉協議会上半期事業について
（2）令和元年度南陽市社会福祉協議会上半期一般会計について

4. 評議員選任・解任委員会の開催

《第1回委員会》 出席者 委員・会長・事務局

- ・期日 令和元年6月19日（水）
- ・会場 南陽市健康長寿センター（創作研修室）
- ・議事 （1）評議員の選任について

《第2回委員会》 出席者 委員・会長・事務局

- ・期日 令和元年12月11日（水）
- ・会場 南陽市健康長寿センター（創作研修室）
- ・議事 （1）評議員の選任について

【2】事業推進資金の確保と福祉基金の造成

市民のみなさまからのあたたかいご理解を得て、地域の福祉活動に役立てる目的のもと各家庭より一般会費（一口800円）、更なる福祉活動の充実を図るため特別賛助会員の個人・団体の方々より会費納入にご協力いただいた。

また、市民団体よりチャリティー事業収益金の一部を寄付金として頂戴し、福祉基金に積み立てさせていただいた。

【3】地域福祉事業・啓発事業の推進

1. 支部社協との連携及び情報交換

《支部長及び担当者会議》

- ・期日 令和元年10月30日（水）
- ・会場 赤湯「湯宿升形屋」
- ・議事 （1）令和元年度敬老会関係事業について
（2）給食サービス事業について
（3）その他

《敬老会事業への協力》

市内9地区において各地区実行委員会を中心に、敬老を祝う催しを実施した。地域の中で高齢者を支え合う小地域ネットワークの一端を担った事業である。

◇開催期日及び招待者数

地区	開催期日	式典会場	招待者(人)	出席者(人)	主な催し物
梨郷	9月1日	梨郷小学校体育館	341	73	園児遊戯・太鼓・フラダンス カラオケ・作文
宮内	9月13日	蔵楽	1,343	240	園児遊戯・歌謡ショー
中川	9月8日	中川公民館	303	62	児童館遊戯・カラオケ
金山	9月8日	ハイジアパーク南陽	105	33	歌謡ショー
沖郷	9月15日	沖郷中学校武道場	1,021	126	中学校吹奏楽・民舞 語り部・作文・歌謡ショー
小滝	9月16日	小滝多目的集会施設	43	17	園児遊戯・語り部
荻・下荻・ 太郎	9月29日	荻小学校体育館	116	48	園児遊戯・マジックショー 舞踊
漆山	9月30日	語り部の館	546	72	園児遊戯・小学生歌と音読等 舞踊・語り部
赤湯	9月27日	シェルターなんよう	1,786	218	園児遊戯・歌謡ショー
合計	—	—	5,604	889	—

《ふれあい給食サービス事業》

地域の方(支部社協・ボランティア)がその地域にお住まいの高齢者に対して、ふれあいと安否確認及び激励を目的に開催した。心あたたまるメッセージカードを添えていただき、大変元気づけられ喜ばれた。(市内8地区 年1～2回実施)

◇実施期日及び配食数 (総配食数 864食)

地区名	宮内	梨郷	中川	赤湯	金山	吉野	漆山	沖郷	
期日	12月3日	11月24日	11月13日 1月15日	11月13日 1月29日	12月1日	12月5日 2月4日	12月10日 2月4日	12月20日 2月3日	
配食数	108	75	145	266	24	41	85	120	
対象者 (延)	男	35	35	56	48	11	12	24	35
	女	73	40	89	218	13	29	61	85

2. 地域福祉権利擁護事業 (福祉サービス利用援助事業)

高齢者世帯の増加、障がい者の地域移行が進む中、地域生活を支える支援事業として、相談・契約等を行ってきた。支援員7名体制で、高齢の方や障がいのある方に、福祉サービスの情報提供や利用手続き・日常的な金銭の出し入れのお手伝いを行い、重要な書類等を紛失しないようお預かりして、安心して暮らせるように支援した。

支援員は相談技術の向上や障がい・認知症等を理解する為、山形県社会福祉協議会主催の研修会や、置賜管内で開催された研修会に参加をして、情報共有及び研鑽を積んだ。

相談件数	契約締結件数	解約件数	実利用者数	支援活動実績
1,087件	11件	10件	51人	885件

3. ふれあい総合相談所の設置・運営

総合相談事業をとおして、個別ニーズに適切に対応するため、相談員間及び関係機関との連携を図りながら取り組んだ。相談所の広報は、市報及び社協だより「あい」への掲載、社協ホームページによる周知活動を行った。

山形県地域包括ケア総合推進センターの支援を得て、無料法律相談を7月19日及び11月29日に開催し多くの相談者を受け付けキャンセル待ちが出るほどだった。また、各種相談研修会に参加し、相談技術の向上や情報共有に努めた。

《相談体制》

- ・毎月第2・第4金曜日 午後1時30分～4時 南陽市健康長寿センター（創作研修室）
相談員7名（民生委員・児童委員、学識経験者）
- ・毎週月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分 南陽市健康長寿センター
ボランティアに関する相談（ボランティアコーディネーター）

4. ふれあい給食サービス及び高齢者見守り活動

高齢夫婦世帯、一人暮らし高齢者世帯等の見守りを兼ねた宅配給食サービス事業をおこない高齢者に必要なカロリーと栄養を考慮し調理ボランティアによる手作り弁当を、配達ボランティアの方々が届けながら、孤立しがちな世帯の状況観察、安否確認も行った。（総配食数 1,276食）

5. 事業周知及び広報活動

社会福祉協議会の事業内容等について、広くご理解いただけるよう社協だより「あい」を発行し、全戸配布を行った。（7月、12月、3月）

また、ホームページを活用し、市民に対し迅速な情報提供をおこなった。

6. 小地域福祉ネットワーク事業

現在、少子高齢、人口減少、貧困層の増大、単身世帯の増加等により、地域から孤立する世帯が増えているために、住民による地域での支え合いや見守り活動が重要な課題となっている。

本会では、関係者による研修会の開催及び活動を行う地区への助成金交付、定例会等にて相談に応じる等、関係者への啓発を図ってきた。

【活動団体への助成金交付】

《地域支え合い活動》

高齢者及び身体障がい者世帯に対し、見守り活動等を実施し、高齢者等の地域における自立した在宅生活の継続支援を図った。（宮内1カ所、沖郷1カ所、漆山13カ所、合計15カ所）

《助け合い除雪活動》

高齢者及び身体障がい者世帯等、除雪困難な世帯の除雪を行い、冬季間の生活を安心・安全に暮らすことができるよう支援した。降雪量が少なく除雪機による活動は少なかったが、水道管凍結等の対応をした地区もあった。（沖郷1カ所、中川1カ所、赤湯1カ所、漆山3カ所 合計6カ所）

7. 住民参加型非営利活動推進事業

《災害救援活動》

災害発生等の非常時に備えた炊き出し訓練を、南陽市ボランティア友の会を中心に実施した。市販のポリエチレン袋を使用しての調理法を試み事前学習会を行った。

《ボランティアセンター事業》

ボランティア活動をしたい人、活動に参加したい人、ボランティアから支援を受けたい人の調整を図り、市民参加の基盤を広げてきた。

～施設・在宅ボランティアコーディネート～

- ・福祉施設を訪問し、歌や踊りの披露や入所者の方々と交流する機会等の調整。
- ・施設の野外レクリエーション時に参加者の車椅子介助をしながら交流をする機会の調整。
- ・定期通院の時に院内を車椅子介助する機会の調整。

8. 福祉教育推進事業

《福祉教育協力指定校事業》

市内全小学校、中学校、高等学校を福祉教育協力指定校とし、子どもたちの豊かな心を育む福祉教育実践を展開していただいた。心あたたまる交流活動がとても喜ばれている。

《ボランティアの育成と活動拠点の開拓》

～ぼらんていあひろば ぴよっこ～

少子化や核家族化が進む中、子どもたちが多様な人々と共に地域共生社会の中で暮らしていくことの大切さを知り、ボランティア活動を通して相手を思いやる心や地域を愛する心を学んでいく必要性が高まっている。子どもたちが様々な人と出会い交流を通し、自分や地域を見つめ、自分たちに何ができるかを考え活動できるよう、福祉教育サポーターの支援のもとに行った。

～中・高校生ボランティアサークル「にじ」～

「ぼらんていあひろば ぴよっこ」との交流会や高齢者施設、保育施設での交流活動、24 時間テレビチャリティー募金や赤い羽根共同募金街頭募金活動をした。

【4】生活困窮者等への自立支援、緊急支援事業

1. 生活困窮者自立相談支援事業（南陽市受託事業）

経済的な課題や生活の困りごとや悩みを総合的に受け付け、相談者が抱える課題を把握するとともに、その置かれている状況や本人の意思を十分に確認することを通じて個々人の状況に合った支援プラン等の作成を行った。また、必要な支援を総合調整し、その効果を評価・確認しながら、相談者の自立に向けた包括的・継続的な支援を行った。

◇利用相談件数等

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ相談件数	46	40	47	61	46	55	60	51	39	56	60	160	721
新規相談件数	6	8	6	9	2	11	2	5	4	8	6	16	83
新規相談申込件数	6	8	6	9	2	11	2	5	4	8	6	16	83
プラン作成件数	1	3	1	4	1	2	1	4	0	0	2	0	19
就労者数	0	2	0	1	4	1	1	0	1	1	0	0	11

◇新規相談者の相談内容（複数回答）

1. 病気や健康・障害のこと	28
2. 住まいについて	10
3. 収入・生活費のこと	71
4. 家賃やローンの支払いのこと	16
5. 税金や公共料金の支払いについて	18
6. 債務について	9
7. 仕事探し、就職について	17
8. 仕事上の不安やトラブル	8
9. 地域との関係について	3
10. 家族との関係について	9
11. 子育てのこと	1
12. 介護のこと	3
13. ひきこもり・不登校	3
14. DV・虐待	0
15. 食べるものがない	5
16. その他	2
件数合計	203

2. 生活福祉資金の申請（山形県社会福祉協議会へ）

昨年度と比較して、貸付件数は2件増加、貸付金額は約2倍に増額している。金融機関からの借入はもちろん、他の融資制度の活用ができない世帯に対し、民生委員・児童委員の協力のもと相談・支援をおこなっている

資金の種類		件数	貸付金額
総合支援資金	生活支援費	0	0円
	一時生活再建費	0	0円
福祉資金	福祉費	1	88,000円
	緊急小口資金	3	288,000円
教育支援資金	教育支援費	2	1,384,000円
	就学支援費	3	800,000円
合計		9	2,560,000円

3. たすけあい資金の貸付による支援事業

緊急を要する低所得世帯への援助活動として、無利子で生活費等の貸し付けを行った。新規貸付は、8件570,000円と昨年度より6件440,000円増加している。(1件に対する貸付限度額は、80,000円)。民生委員・児童委員の協力を得て滞納者への償還指導をおこない、順調に償還いただけるようになった。

4. 善意銀行事業による緊急支援

市民の方から善意の寄付金や物品を預託いただき、生活に困窮している方々への緊急支援、衣類やタオル、洗剤、食品等の寄付物品を払い出し、善意の交流をおこない有意義に活用した。

《内訳》

預託種別	件数	金額	払出種別	件数	金額
金品	9件	40,600円	支援金	0件	0円
物品	19件		見舞金	2件	20,000円
			緊急貸付	55件	1,286,000円
			物品	28件	
預託合計	28件	40,600円	払出合計	85件	1,306,000円

【5】共同募金の推進

1. 赤い羽根共同募金運動

市民の皆様から戸別、職域、そして街頭での募金活動(市内6店舗)実施し、あたたかい善意の募金が寄せられた。頂戴いたしました貴重な募金は、山形県共同募金会に送られ、次年度配分となります。前年度の募金より本年度配分された金額は、1,727,352円で身近な地域福祉活動に役立たせていただいた。

区分	募金額	区分	募金額
戸別募金	3,511,320円	街頭募金	79,581円
職域募金	122,921円	その他の募金	22,434円
		合計	3,736,256円

2. 歳末たすけあい運動

共同募金の一環として、地域住民やボランティア、民生委員・児童委員、社会福祉施設・団体の協力のもと、新たな年を迎える時期に支援を必要とする人たちが、地域で安心して暮らすことができるよう運動を推進した。

《歳末たすけあい運動配分委員会の開催》

期日 令和元年12月17日(火)

会場 南陽市健康長寿センター(健康教育室)

内容 ・配分対象者及び配分額の決定について・配分金伝達の日程について

【募金額】2,751,725円

(内訳:戸別募金2,407,091円、職域募金246,279円、篤志募金他98,351円、利子4円)

《歳末たすけあい配分状況》

配分対象者		人数	金額	配 分 金 計
低所得者世帯	幼 児	14 人	3,000 円	42,000 円
	小学生	46 人	4,000 円	184,000 円
	中学生	34 人	5,000 円	170,000 円
	高校生	32 人	7,000 円	224,000 円
	生計中心者	192 人	9,000 円	1,728,000 円
特別要援護児童・生徒		9 人	5,000 円	45,000 円
社協相談対応世帯		8 件	8,000 円	72,000 円
運動推進経費		—	—	48,555 円
次年度繰越金		—	—	238,170 円
計		335 人	—	2,751,725 円

【6】指定管理業務及び受託事業

1. 南陽市健康長寿センター・デイサービスセンター管理経営事業

花壇への植栽や危険な樹木の伐採等をおこない、環境美化と安全面の配慮に努めた。

《南陽市健康長寿センター利用状況》

	健 康 教育室	診 察 室	栄 養 指導室	生 活 訓練室	創 作 研修室	こども の広場	交 流 スペース	月別人数 合計	月別利用 回数
4 月	285	54	47	110	132	52	42	722	68
5 月	535	229	47	133	300	47	109	1,400	82
6 月	639	347	139	170	228	52	95	1,670	93
7 月	596	139	135	230	0	81	138	1,319	108
8 月	309	66	96	64	0	25	64	624	62
9 月	357	250	60	295	0	31	266	1,259	67
10 月	843	259	200	250	289	54	203	2,098	103
11 月	413	42	241	75	169	127	67	1,134	130
12 月	545	60	195	119	153	148	91	1,311	130
1 月	285	50	197	26	108	155	36	857	107
2 月	250	41	116	62	99	212	38	818	146
3 月	287	0	87	0	93	3	37	507	42
人数合計	5,344	1,537	1,560	1,534	1,571	987	1,186	13,719	1,138
利用回数	198	42	109	82	133	440	134		
開設時（平成6年4月）からの会議室利用者数					開設時（平成6年4月）からの会議室利用回数				
457,447 人					20,155 回				

2. 老人いこいの家管理経営事業

施設の老朽化に伴い、設備の修繕箇所が多くなっているが、安全に利用いただけるよう、また、日々の清掃を丁寧に行い、気持ちよく利用いただけるよう努めている。

《月次・曜日別利用状況》

月	利用者数	開荘日数	一日平均利用者数	曜日別利用者数（人）					
				火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
4月	389	25	15.6	96	70	48	57	75	43
5月	291	25	11.6	69	59	37	62	33	31
6月	355	26	13.7	69	78	46	71	69	22
7月	319	25	12.8	71	56	42	76	49	25
8月	253	21	12.0	47	53	32	68	37	16
9月	308	25	12.3	62	59	34	73	48	32
10月	389	25	15.6	104	88	62	72	45	18
11月	425	26	18.3	86	62	71	104	56	46
12月	318	23	13.8	59	90	52	17	43	57
1月	338	22	15.4	72	57	53	59	50	47
2月	365	25	14.6	62	80	40	63	79	41
3月	296	26	11.4	67	45	31	39	65	49
計	4,046	294	13.8	864	797	548	761	649	427

3. 戦没者追悼式事業

地区	戦没者柱数	一柱助成金	地区助成金	慰霊祭開催日	慰霊祭会場
漆山	140	500円	70,000円	5月10日	珍藏寺
宮内	233	500円	116,500円	6月10日	蓬莱院
中川	100	500円	50,000円	6月24日	中川地区忠魂碑
梨郷	120	500円	60,000円	7月10日	梨郷神社
金山	46	500円	23,000円	7月13日	東禅院
沖郷	205	500円	102,500円	9月3日	高福寺
赤湯	228	500円	114,000円	9月17日	烏帽子山八幡宮
吉野	91	500円	45,500円	10月20日	吉野公民館
事務費	—	—	7,800円	—	—
合計	1,163	—	589,300円	—	—

4. 福祉バス管理運行事業

市内の福祉関係団体による各種研修会、福祉大会の参加、ボランティア活動等のために利用された。安全な運行に留意しながら事業を実施した。

月別	運行日数 (日)	運行回数 (回)			乗車人数 (人)	走行距離数 (k m)
		市内	県内	県外		
4月	12	1	7	4	215	2,183
5月	6	1	2	3	117	1,590
6月	15	3	8	4	325	2,081
7月	18	3	10	5	467	2,810
8月	16	6	9	1	614	1,398
9月	15	5	6	4	339	1,735
10月	22	5	11	8	451	3,754
11月	12	3	4	5	281	1,971
12月	5	3	2	0	88	300
1月	2	1	2	0	67	193
2月	2	1	1	0	26	81
3月	2	1	0	1	35	177
合計	127	33	62	35	3,025	18,273

5. 地域介護予防活動支援事業

《はつらつくらぶ事業》

介護保険対象外の元気な高齢者を対象に、居宅への閉じこもり、寝たきりや認知症の予防を目的として、老人いこいの家・健康長寿センター・防災センター・文化センター等で、健康維持や各種趣味活動を開催した。

事業回数	総利用者数	男	女
230回	5,016人	258人(5%)	4,758人(95%)

《高齢者地域サロン》

高齢者が住みなれた地域において自立した生活を継続するために、介護予防の視点からその心身機能の維持向上の機会が必要である。そのために、交流の場の充実を図ることで、要介護状態等になることを予防できることから、自主的に組織化を図ろうとする地域活動の支援を行った。(助成対象サロン 96 団体)

《研修会》

高齢者地域サロンの代表や支援者に参加いただき、研修会を開催した。

期 日 令和元年 11月6日(水)、8日(金)、11日(月)、12日(火)、21日(木)、26日(火)

会 場 健康長寿センター、沖郷・漆山・梨郷公民館、蔵楽

内 容 各サロンより“サロンの魅力・自慢”“困っていること”

参加者 155人

6. 避難者生活相談支援事業(県社協受託業務)

東日本大震災により市内に避難している世帯を訪問し、生活上の困りごとや不安を感じていること等を把握し、必要な福祉サービス等につなぐとともに、行政・地域住民や民生委員・児童委員、ボランティア、NPO等と協力しながら避難者の生活支援及び相談に応じた。

《活動内容》

- ・訪問活動(通常2~3ヶ月に1回程度)
- ・総合防災課・社会福祉協議会共催「がんばろう東北」憩いと交流のひろば(毎月第1月曜日 午後1時30~3時)
山形県社会福祉協議会復興支援員、山形県駐在福島県職員、支援者等も参加
- ・総合防災課、保健師、福祉課、自立支援センター等関係機関と連携、重要案件に関してはケース検討会で情報共有。
- ・山形県社会福祉協議会被災者生活支援調整会議出席(3回)
- ・やまがた避難者支援協働ネットワーク「ケースマネジメント研修会」出席(山形県自治会館)
- ・やまがた育児サークルランド「山福交流会」出席(福島市)
- ・「町の保健室」ボランティア育成研修会出席(山形市)
- ・全戸訪問時雪若丸持参、次年度動向確認、南陽市独自の世帯票を作成配布回収し現状把握
- ・復興ボランティア支援センターやまがた「支援者のつどい」出席(山形市・南陽市)
- ・東日本大震災復興祈念事業実行委員会出席

＜イベント内容＞

- ・お花見会
- ・バスツアー(2回)
- ・ルーシーダットン教室
- ・町の保健室&AMカフェ
- ・ポプリリース作り



7. ファミリー・サポート・センター事業

子育てのお手伝いをしたい人と、子育ての手伝いをしてほしい人が会員になり、子育てを地域で相互援助し会員同士で支え合う組織です。援助活動は保育施設等への送迎、保護者の外出の際に子どもを預かる、保護者の病気や冠婚葬祭等急用事に子どもを一時的に預かる等です。

《業務内容》

- ・会員の募集・登録等の組織業務
- ・相互援助活動の調整
- ・活動に必要な知識を提供する講習会、
会員同士の交流・情報交換会の開催
- ・子育て関連施設、行政機関との連絡調整
- ・イベント等開催時の一時的・臨時託児



《令和元年援助活動数》

内 容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
保育・学童施設等までの送迎のみ		1		3									4
保育・学童施設終了後の預かり (送迎含む保育)							1		2				3
保育・学童施設が休みの為預かり													0
子どもの学校行事等の際に きょうだいの預かり			1			1						1	3
きょうだいの検診や通院時の預 かり							2				1	1	4
習い事の送迎				3	6								9
保護者の外出等の預かり											1		1
保護者の短時間・臨時的就労時に 子どもの預かり	6	1	3	2		4	3	3	4	4		10	40
保護者のリフレッシュのため													0
保護者の体調不良ため											1		1
その他							1			11			12
合 計	6	2	4	8	6	5	7	3	6	15	3	12	77

《イベント等開催時の一時的・臨時託児件数》

開催日時	イベント名	イベント会場	託児人数
4/12・4/13・5/17・6/7・6/27・ 7/5・8/9・10/7・11/27・12/2・ 1/6・2/3・2/27	生活クラブ (南陽地区運営委員会、地区会 ブロック会、講習会など)	健康長寿センター ワトワセンター	25人
6/2	アダーシジョコンサート	シェルターなんよう	12人
6/14・12/13・1/17・2/27	※南陽市事業(ごっくんくらぶ・マ マとベビーの体操)など	健康長寿センター	約50人
合 計	15回	—	約87人

※南陽市事業の託児については複数の子ども(15名程度)を複数の保育者で担当しています。

8. 地域包括支援センター業務

南陽市から委託を受けて5年目を迎え、社会福祉士、看護師、主任介護支援専門員がお互いに連携をとりながら、高齢者の暮らしを総合的に支援し「介護予防や健康について」「権利擁護や財産について」「地域の暮らしについて」さまざまな相談を受け問題解決に向けて迅速に対応した。また、高齢者が地域で自立した生活を営めるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを進めるとともに、認知症施策の充実や啓発に力を入れることで、高齢者自らが日頃から健康の保持・増進や介護予防に努め、住み慣れた地域で生涯現役を目指して活動できる社会参加と自立を促す機会の提供を進めた

《地域包括支援センターの主な業務内容》

(1) 総合相談支援業務

- 担当圏域(赤湯・沖郷・梨郷)住民の身近な相談窓口として、保健福祉サービスの調整や必要な制度へ繋ぐなど適切な支援に取り組んだ。高齢者の総合相談のワンストップサービスの拠点として、多様化する高齢者のニーズや複雑化する生活課題に対し、継続的・専門的な相談支援を行い課題解決に取り組んだ。

- 地域の高齢者サロンや通所型サービスB（住民主体の通いの場）を訪問し、健康講話や介護予防に関する啓発活動の出前講座を行う他に、認知症等に関する情報提供を行いながら参加者や地域の住民、専門職等の関係者と顔の見える関係づくりに努めた。

【相談件数（実数）】

内 容	平成 30 年度	令和元年度
介護保険その他保健福祉サービスに関すること	204 件	191 件
権利擁護（成年後見制度等）に関すること	3 件	5 件
高齢者虐待に関すること	2 件	2 件
合 計	209 件	198 件

【出前講座・認知症サポーター養成講座回数（参加人数）】

内 容	平成 30 年度	令和元年度
出 前 講 座	27 回(541 人)	13 回(247 人)
認知症サポーター養成講座	2 回(37 人)	3 回(117 人)
合 計	29 回(578 人)	16 回(364 人)

(2) 権利擁護業務

- 成年後見制度の活用に関して、判断能力の低下がみられる認知症高齢者が適切な介護サービス利用や金銭管理、法的行為を行うために、成年後見制度の活用についての情報提供をするなどの支援を行った。必要時には、成年後見制度（任意後見含）や福祉サービス利用援助事業の活用に関する繋ぎ支援を行った。
- 高齢者虐待防止対応に関して、高齢者虐待を未然に防ぐ周知活動を行いながら虐待の通報や相談があった場合には速やかに関係機関と連絡を共有し、事実確認と対応会議を行い継続的な支援を行った。今年度は2件、身体的虐待、心理的虐待、ネグレクト（介護放棄）といった重複する虐待が疑われる困難な相談を受け対応を行った。
- 困難事例への対応に関して、支援困難事例に関する介護支援専門員への適切な指導、助言並びに居宅介護支援事業所等の介護支援専門員とのネットワーク強化に取り組んだ。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- 包括的・継続的なサービスを切れ目なく提供することができるように介護施設や医療機関等の関係機関との連携により支援のネットワークを構築するよう取り組みを進めた。介護支援専門員が地域の社会資源を活用した支援ができるように、地域住民主体の互助促進のため、地域での講話等を通じて啓発に取り組んだ。
- 介護支援専門員に対する支援として、居宅介護支援事業所からの困難事例の相談に対して、介護支援専門員の側面的な支援（指導、助言、情報提供、同行訪問、カンファレンスの開催など）を行った。また、自立支援に資するケアマネジメントが提供できるよう、自立支援型地域ケア会議を開催し様々な専門職からの助言を通し、介護支援専門員のスキルアップの支援に努めた。
- 南陽市内の主任介護支援専門員の連絡会の事務局を担うことにより市内全域における介護支援専門員の技術向上や相互の連携に関する支援を行った。

(4) 介護予防・介護予防ケアマネジメント／日常生活支援総合事業業務

- 要支援認定を受けた高齢者に対し、介護予防サービス計画を作成し介護サービスの利用支援を行った。その際、状態不安定で要介護状態へ重度化する可能性がある認定者に対しては継続的な支援を行うことを視野に居宅介護支援事業所へ委託を行った。
- 日常生活支援総合事業として「基本チェックリスト」を行った結果、将来的に要介護や要支援状態になる恐れがあると判断された高齢者に対して通所型サービスB（住民主体の通いの場）や、

通所型サービスC（短期集中筋力アップや口腔機能向上）の利用に伴う介護予防ケアマネジメント支援を行った。また、一般高齢者向けの運動機能向上や認知症予防を目的とした一般介護予防事業の情報提供、利用支援も行った。

【介護予防支援件数】

	自センター	委 託	合 計	自センター割合	委託割合
平成 30 年度	616 件	509 件	1,125 件	55%	45%
令和元年度	575 件	599 件	1,174 件	49%	51%

【介護予防ケアマネジメント件数】

	自センター	委 託	合 計	自センター割合	委託割合
平成 30 年度	431 件	183 件	614 件	70%	30%
令和元年度	322 件	239 件	561 件	57%	43%

(5) その他の業務

- 認知症の当事者やその家族に対する支援、地域住民への認知症の理解を深める目的で毎月第4土曜日に認知症カフェを毎年開催し計444名（1回平均37名）の参加者で、認知症当事者の参加者やその家族、老若男女一般の参加者と、様々な講座やミニコンサート等を楽しみながら、分け隔てなく交流できる場を提供することができた。
- 隔月に広報誌を発行し、担当圏域の公民館や市役所などに設置し広く広報活動を行った。
- 地域からの要望により高齢者サロンや小学校「放課後子供教室」等で認知症サポーター養成講座や出前講座として介護予防体操、介護保険等の講話を計264名に行った。

【7】介護保険事業

1. 居宅介護支援事業

高齢者の自立支援と重度化防止の観点から、ご本人、ご家族に対して、状態の改善の可能性を目指し生活の問題や課題点の解決に向け、希望する生活に必要なサービス等を利用できるようケアプランを作成した。介護支援専門員を常勤専従6名、そのうち主任介護支援専門員を1名配置し特定事業所として質の向上に努めた。また、地域包括支援センターと連携を図り、支援困難な問題ケースへの対応や連絡調整の強化を図るとともに、南陽市介護予防支援事業を受託し要介護状態に至らないよう自立支援プランを作成。要介護認定者数の増加に伴い、介護保険認定調査を南陽市及び近隣市町から業務委託を受け認定更新者の訪問調査を実施した。

医療介護連携強化により医療機関や関係者と共に置賜入退院調整ルールを活用し情報共有に努めた。

人権擁護・高齢者虐待防止連絡会など各種関係機関の研修を通してネットワークを深め、虐待防止の推進にも関わった。また、認知症高齢者の増加に伴い、住み慣れた地域で生活が継続できるよう認知症サポーターとして3名の有資格者が高齢者サロンや市が開催する市民公開講座や児童のびよっこ活動などに出向き「出前介護講座」にて周知した。

そして、定期的に行われる居宅介護支援事業所会議、自立支援型地域ケア会議や医師会の研修会など様々な研修会や会議に積極的に参加し、職員個々のスキルアップ・質の向上を図ることができた。

【介護支援専門員の業務内容】

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ ケアマネジメント・・・相談援助、ケアプラン作成、課題分析、サービス事業者調整 ■ 要介護認定業務・・・介護保険認定調査（受託） ■ 給付管理業務・・・給付実績管理、介護給付費請求事務 ■ 自立支援型ケア会議 ■ グループホームゆらり運営推進会議 ■ 高齢者虐待防止連絡会 ■ 出前介護講座 ■ 認知症南陽市キャラバンメイト活動 ■ 介護支援専門員実務研修における科目「基礎技術に関する実習」に協力の体制の確保 |
|--|

2. 訪問介護事業

少子高齢化による人口減少、晩婚化、非婚化、共働き世帯の増加など社会の急激な変化に伴い、家族形態も大きく様変わりしている。家族形態の変化は独居高齢者や、老々介護、認々介護といった問題を抱える高齢夫婦世帯を増加させ、また 8050 問題など中高年のひきこもりの長期化に伴う介護の問題なども引き起こしている。それに伴い利用者や家族のニーズも多様化、複雑化してきており、居宅を訪問するヘルパーはますますその役割を増してきている。

ヘルパー自身のスキルアップに関しては公的機関が主催する専門研修会などに積極的に参加し介護技術や接遇、法令などの学習に努めヘルパーとしての資質の向上に取り組んだ。また担当者会議やケア会議における専門家からの助言等を活用し自立に向けての支援、重度化防止にも努め、利用者の生活の質の向上にも取り組んできた。

【訪問介護サービスの概要】

(1) 身体介護

- 入浴介助・・・入浴時の洗体、洗髪、浴槽への移動介助等
- 清拭介助・・・入浴が困難な方はベッド上で体を拭く
- 更衣介助・・・衣類の交換介助
- 食事介助・・・食事の摂取介助
- 排泄介助・・・トイレ等での排泄時の介助やベッド上でのオムツ交換

(2) 生活援助（同居者がいる場合、基本的に訪問不可）

- 調理・・・食事づくり
- 掃除・・・トイレ、浴室、居室など(生活する上でかかせない場所のみ)
- 洗濯・・・衣類の洗濯
- 買物・・・生活に必要な物品の買物（お酒、タバコ、雑誌等の趣向品は対象外）

3. 通所介護事業

近年の当事業所の業績不振・利用者の休日利用希望も減少傾向にあり、令和元年8月より土曜営業を終了した。土曜営業を行わないことにより職員の勤務体制見直しを行いケアの充実を図り、利用者の満足度の向上を目指し取り組んできた。具体的には、職場内外問わずにアンケート調査を行い、潜在化していた要望や改善点への対応策を全職員で検討を重ね利用者一人一人の満足度と安定した利用回数の確保を図った。また、利用者の体調の変化に気を配り事業所内での情報を共有し、家族、担当ケアマネジャー、医療機関への情報共有を細やかに行うことで健康状態を維持し、病状の進行予防に努めた。

【介護度別利用者数】

※令和2年3月31日現在

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数	9人	12人	31人	18人	17人	6人	0人	93人

【年齢別利用者数】

【利用者男女比】

年代	70歳代	80歳代	90歳代
人数	5人	44人	44人

男性	女性
14人(15%)	79人(85%)

【年間利用者の推移】

	平成30年度	令和元年度
1日平均利用者数	29人	32.6人
年間利用者数合計	7,263人	8,489人
年間平均稼働率	72.6%	82.4%

【通所介護サービス及び総合事業サービスの提供内容】

- ◇ 日常生活の援助・・・排泄介助、移動介助、その他必要な身体介護
- ◇ 健康状態の確認・・・バイタルチェック、状態見守り、医療処置、緊急時の対応
- ◇ 入浴の介助・・・洗身・洗髪・更衣の介助・見守り
- ◇ 食事の介助・・・季節に添った食事の提供及び調理、食事摂取介助
- ◇ レクリエーション・・・行事的活動、趣味活動、日常生活訓練
- ◇ 相談・助言・・・本人及び家族に対する日常生活の介護、看護の相談・助言

《令和元年度 福祉関係受賞者》

【山形県県民福祉大会会長表彰受賞者】

- 鈴木 圓 紀 様 (民生委員・児童委員功労者)
- 山口 明 夫 様 (一般社会福祉事業関係功労者)
- 伊藤 彰 久 様 (社会福祉事業協助・奉仕者)
- 三間通地区いきいきサロン 様 (社会福祉事業協助・奉仕団体)

【南陽市社会福祉協議会会長表彰活動功労受賞者】

- 渡辺 久 七 様 (地域社会の模範)
- 黒 沢 一 永 様 (家庭介護の模範)
- 三 瓶 岩 夫 様 (地域社会の模範)
- 菊 地 き み 子 様 (地域社会の模範)
- 鈴 木 勇 様 (地域社会の模範)
- 鈴 木 圓 紀 様 (地域社会の模範)

令和元年度南陽市社会福祉協議会関連会議等

開催年月日	事業・会議名	会場・開催場所
平成31年4月22日	県内市町村社協事務局長会議	県総合社会福祉センター
平成31年4月24日	ボランティア友の会総会	えくぼプラザ
平成31年4月25日	民生委員児童委員協議会総会	市役所
令和元年5月10日	老人クラブ連合会総会	シェルターなんようホール
令和元年5月24日	定住自立圏構想に係る第1回「福祉」研修会	千代田クリーンセンター
令和元年6月21日	県社会福祉振興会総会	県総合社会福祉センター
令和元年7月26日	市町村共同募金委員会事務局長会議	県総合社会福祉センター
令和元年7月26日	県身体障害者福祉大会	新庄市 新庄市民会館
令和元年8月30日	県老人福祉大会	村山市 村山市民会館
令和元年9月19日	置賜三市五町社協連絡会議	川西町 まどか
令和元年11月13日	県民福祉大会	鶴岡市 荘銀タクト鶴岡
令和元年11月16日	置賜ボランティアの輪連絡会議	米沢市 すこやかセンター
令和元年11月20日	13市町常務理事事務局長会議	寒河江市 文化センター
令和元年12月9日	置賜三市五町社協役員研修会（～12/10）	飯豊町 いいで旅館
令和2年1月24日	福祉共育セミナー	山形市 自治会館